

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームハートフル基本理念 ゆっくりゆったり、共に暮らし「わはは」と笑い「まめなかな」と声をかけ、共に暮らしていきます。そして私たちにたくさんの知恵をいただけませんか。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念を玄関、事務室に掲載している。	○ 職員に常に周知徹底を図るため、毎週月曜日朝ミーティング時全員で唱和したい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会を年3回開催しています野でその時家族の方に周知し理解していただくように勤めている。また、グループホームだよりに掲載している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		○ 今後、畑の作物等のおすそ分けを通じて、コミュニケーションが取りたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	1、地元のふれあいサロンに参加 2、小学校の運動会に参加 3、百年公園展覧会のテーブルカットに参加した。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	1、地元福祉系大学実習生受け入れ 2、社会福祉協議会見学受け入れ 3、地域包括支援センター職員見学受け入れ 4、ふれあいサロン健康講話出張等臨機応変に応じています。	○	地域の介護者の方などを対象に、施設職員による認知症の講話や相談に応じられるようにしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果により、 1、温かみのある表札 2、サッシの二重ロック外し 3、個別記録の見直し 等、具体的な改善に取り組みました。	○	家族会で評価の内容を開示し話し合いたいと思います
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の回を重ねるうちに、委員の方から地元住民の方より見学希望の要望があり、見学時手作りおやつを利用者の方と作られ、グループホームの理解が深められた。	○	運営推進会議と家族会のドッキングを計画しています。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		○	地域密着型サービスとして、地元紙「広報」に認知症の理解を深める為の記事やグループホームの活動を載せていただく提案をしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修、内部研修をうけ、全体会議にて発表している。	○	パンフレットや制度の説明等職員の目の届くところに設置してさらに周知を図りたい。また、相談を受ける時にはパンフレット等で説明できるようにしたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1、併設特別養護老人ホーム職員による研修発表を受けた。 2、運営推進会議にて議題に上がり、検討した。		今後も、積極的に研修に参加したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書にのっとり、十分な説明と、ご利用者、ご家族様の話を良く聞くようにしています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、2箇所の事業所より、苦情相談員の来所あり。話しやすい雰囲気にならしています。	○ 重要事項説明書には相談員の派遣が明記されているが、グループホーム便りにも年一回ぐらいは記載して、ご家族の方にもさらに知っていただくようにしたい。職員には、グループホーム会議で相談員の報告書を議題に載せたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康上の問題が発生した時は、その日のうち若しくは翌日には報告しています。また、面会時には日々の暮らし振りを報告するようにしています。金銭管理は毎月報告しています。	○ 毎月の金銭管理、請求書等送付時、近況をお知らせするものを作成しました。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を毎年3回開催して、意見交換をしています。その他、意見、苦情は規定がありそれに従って、解決活動をしています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議にて、意見を出し合い、運営に反映しています。提案箱を設置しています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要時併設施設の職員の応援が出来るように連携しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動等はなるべく緩やかに心がけています。離職時の欠員対応では依然勤めていた馴染みの職員を依頼できるようにしています。		今後は地域の方にもボランティアを募り、協力を得たいと思います。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	就業年数に応じた研修計画があります。研修終了後は法人全体の会議にて発表をする仕組みがあります。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、意見交換をして交流を図っています。	○	今後、地域密着型サービスとして、市役所の方に意見交換が出来る場作りを提言していきたいと思っています。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	1、職員の親睦会年2回 2、職員旅行（海外あり） 3、職員のストレス解消のための研修（老いの風景作者渡辺哲夫先生の講話、太極拳） 4、年2回の面接を実施 5、関市健康体操BGMとしてながす。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	1、法人目標、部門目標、個人目標の設定評価を通じ、人事評価制度を取り入れ、職員の「やる気」を引き出す取り組みを行っています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回相談時、ゆっくり話が出来るようにすると共に、ご家族様の発言には本にのこることを代弁されている事も多い為傾聴に心がけています。併設の居宅サービスを受けておられた方も多いため、サービス提供中グループホームの職員が声をかけて様子をうかがっている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に来られた時は十分話を聞くと共に、入所まで電話等で様子をうかがうときに相談にのっています。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズに応じて、併設施設の相談員と連携を取っています。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にながら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	お試ししてきた利用や入所後毎週土日は帰宅して、徐々に馴染んでいくようにしたり、入所直後の面会は日中の明るい時に来ていただくような配慮している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらかつ喜ぶ哀しさを共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑で野菜作り、昔のおやつ作りなどを通して、昔取った杵柄を引き出し教えてもらっています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	「ご家族の協力を得て穏やかな日々を過ごして」という題の事例研究を行って家族の方にもいろんな意見を頂いています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	自宅での介護疲れから、虐待に走りそうになった事があったとご家族の意見があり、今ではホームの入所をきっかけに親の面倒を見たいと、頻繁に面会に来られ、入浴等生活場面での家族による支援してもらっています。		利用者の方が自由に御家族とふれあい、生活できる時間を共有できるような取り組みをしていきたいと思います。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設特養短期入所やデイサービス利用者であった方にはお知り合いの利用者があるときは会う事が出来るような配慮をしています。	○	案内パンフレットに具体的に馴染みの品物、家具、写真等ありましたらお持ちいただくように、明記します。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の方それぞれに好き嫌いもあるし、相性もありますので、食卓のかける位置や居室の配置等配慮しています。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所されても、電話等の対応は丁寧をしています		グループホームハートフルを利用されて感想などお聞きできるようなシステム作りをして、運営に役立てたいと思います。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面接時の聞き取りや入所にいたるまでのご家族との連携（電話・見学）を取り入れて、思いを把握するよう努めています。また、暫定ケアプランを作成する時お聴きしています。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接では特に生活歴をじっくり伺うように努め、バックグラウンドアセスメントに詳細に記録しケアカンファレンスに役立てています。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入所後暫定ケアプランから本プランまでの間に生活経過記録をしっかりと記録しています。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンス開催前に担当者がご家族の聞き取りを行っています。その意見を反映できるように、個別に検討し計画の作成をしています。	○ ご家族の方にカンファレンスに積極的に参加していただくにはどのような方法があるか検討したい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	その都度変更し、訂正して、利用者、ご家族様に説明しています。	○ 定期的なモニタリング以前に見直しが必要になる場合があるため、3ヶ月が適当かどうか話し合いたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケース記録の生活経過記録は見出しがわかりやすい、フォーカスチャート方式にしています。	○	日々の生活記録とは別に突発事項、身体変調関係、入退院等のみやすい記録を考えています。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設の応援を受け、急な受診等対応しています。特養の看護師が夜間も体調に関して対応しています。特別な外出では併設施設の運転手の応援を受ける事があります		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している		○	今後、密な連携をしていくために、運営推進会議において話し合い利用者の希望に添いたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	理美容ボランティア 併設特養のサークル活動に参加（茶華道・住職による説教・居酒屋・小物作り等） 地元のふれあいサロン参加	○	今後、運営推進会議の話し合いにおいて、利用者の意見も募っていききたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している		○	利用者はもとより、在宅で生活しておられる認知症高齢者の為にどんな活動が出来るか考えて、地域包括支援センターと連携したいと思っています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を希望される方はその様に対応させて頂いています。しかしその様な医者がいない方は、往診がしてもらえる協力医にお願いしています。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科医が契約により、毎月2回往診があります。又、それ以外急な状態変化のときは電話にて指示を仰ぐ、処遇困難な場合等専門的なアドバイスがいただけます。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設施設の看護師に逐一報告し、指示を仰いでいます。また、夜間はその施設の看護師が当番で連携しています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院者が出た場合、管理者は少なくとも週1回は面会に伺い状態を聞くように努めています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化したり、終末期を迎える時期などは、併設特養の看護師とよく相談して医師が判断し、ご家族との話し合い（医師、ご家族、特養看護師、ホーム職員、管理者）を早期にはじめます。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在ターミナルケアをしています。協力医に24時間連絡取れるようにしています。併設特養看護師と専用の申し送り記録を作成し連携しています。ご家族は頻繁な面会をお願いして、報告、相談しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	併設特養に移られる場合がありますが、お試し利用をしたり、昼間に訪問の機会を多くして、ダメージを和らげる配慮をしています。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者お一人お一人の性格や習慣に合わせて、声掛けしています。特に排泄に関わる事は、気をつけています。個人情報に関しては、法人が5原則を定めそれを遵守しています。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の生活の中で、入浴はいつがいいですか。食事は何が食べたいですか。というようにオープンクエッションの声掛けに留意しています。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課を定めていません。天気に応じたり、季節に応じて、利用者さんの意見を聴くように努めています。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	化粧水やおしろい、口紅などは職員がお渡しし、なるべく出来るように支援しています。また、好みの服を外出の時は着ていただいたり、アクセサリーもつけられます。理美容は希望があれば応じます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	なるべく職員は利用者と共に行動するように心がけています。そして、食事が終わってもすぐに片付けないように、コミュニケーションを大切にしています。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	居室以外のオープンなところでは喫煙可能です。お酒は食事のとき可能です。おやつは好みに合わせます。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入所されてから、排泄パターンのチェックをおこないその方に合った時間帯でそっとお誘いできるようにしています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな入浴日は決めています、その時の気分や体調でかなり変動がありますのであまり予定にこだわらないようにしています。また、いろんな入浴剤を入れて今日は（下呂温泉・登別温泉）です。といって楽しんでもらっています。	○	脱着室や浴室音楽が聴こえるようにして、好きな曲かけて楽しんで入浴できるようにしたいです。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	温かい飲み物や足浴など希望されるもので安眠を促がしたり、中には、「添い寝」など試みております。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	卓球がお好きな方は雨の日など室内で楽しめるような事を致します。犬を飼いお好きな方に餌やりや散歩をして頂き、生きがいとされています。長年、家事だけを勤められた方には掃除が出来るように、道具を用意して、やりがいを支援させて頂いています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の大切さを考慮して、スーパーなど少数の買い物の時は支払いが出来るよう支援しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	併設施設内で行われる行事には必ず参加しています。季節を感じる外出は年間で計画をしています。お一人の方は自由に併設施設へ遊びに行かれます。日常の買い物は全員一回では行けないので、有る程度順番や体調を考慮して行かれます。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	温泉、花フェスタ、自宅訪問、寺参り等個人的な支援しています。教員であった方は学校、入所前に居られた福祉施設へ訪問	○	お墓参り、親戚（実家）の家へ訪問等も考えています。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状のお手伝いをしています。	○	母の日や敬老の日、誕生日などにプレゼントをおもらいになる時、お礼のお手紙の支援をしたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室内デイルームお好きなところを選んでいただき、お茶、コーヒー、お食事もしていただけるように声掛けております。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で身体拘束ゼロ委員会を設置していて、ホーム職員もメンバーになっています。委員会の会議録は職員が必ず目を通すようになっていますし、やむを得ず拘束する場合の手順も規定されています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は原則開錠しています。部屋の窓（掃出し）のため危険防止の為ロックしてある部屋とそうでない部屋がありますが、天候やスタッフの人数で開錠します。	○	日中部屋の窓のロック（一部屋・デイルーム）外しに取り組みたいです。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	寄り添い、見守りスタッフを配置していますし、利用者と共に動くことに留意しています。排泄の見守りは段階があり、完全に後でそっと確認する方から、完全に付き添う方までその方に合った配慮をしています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	殆どどの利用者は、衣類、洗面道具、身の回りのものは居室内で利用者の手の届くところにあります。中には鉄等をお持ちの方も職員は周知して、注意しています。	○	すべての利用者が必要な物が手の届くところに置くには先ずどんなものが置く事が出来るかを考えていきたいです。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故対策委員会を設置し、ホーム職員も委員であり、定期的な検討をしています。内部研修では年2回緊急時の対応を研修しています。離設者発生時の手順を定めております。また、誤薬などはヒヤリハット・事故報告書などにのっとり是正活動を行いその後内部監査を実行し、効果測定をしています。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応訓練は内部研修にて行っている。	○	運営推進会議で緊急時職員の対応を実際行ってみて、評価するという実験を計画しています。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	18年度の運営推進会議にて地域の方にも参加して頂いて何かの時は協力しますと頂いています。食品の備蓄3日間あります。飲料水は併設施設に災害時利用できるものがあります。	○	介護用品の備蓄をしたいと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	一人ひとりに起こりえるリスクはケアプラン上にて明確にして、ご家族ご説明や情報提供の双方向を行っています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	食事、排泄のチェックはもとより、併設施設の看護師と毎朝事務所ミーティングで顔合わせため常に利用者の詳細報告し、連携を取っています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく処方される薬があると、薬情報に職員が閲覧しサインします。日々の細かい申し送り事項にも記載し、サインします。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝のヨーグルト、繊維の多い食材、夕食後の牛乳などその方に合ったものを、併設施設管理栄養士と相談しています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	1日2回朝、夕口腔ケアしています。	○	今後毎食後のケアに取り組みたいと思います。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定から、BMI 値を出し併設施設管理栄養士に逐次相談しています。また、協力医の定期的な往診時に必要な方は採血し血液検査の結果で指示をもらっています。また、水分補給は定時とその他一人ひとりに合わせポカリスエットや冬季は生姜湯などもお出ししています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	法人内で感染症対策マニュアルを作成し、法人内ランでいつでも見られるようにしている。また、時期的な感染症が多い為、通年を通じて行う事、時期には強化して行う事など分かりやすいカレンダーを作成しています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	生野菜は新鮮なものを購入し、なるべく早期に使用するように職員間で申し送っています。夜勤者が冷蔵庫の点検を毎日行っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には話しやすい安楽なソファを設置しています。ホームの玄関はへいせつ特養の中庭に有りますが、特養を通らないでも入れるように、独立した玄関になっています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物の設置中庭には季節の花が楽しむ事が出来るように植樹されガーデンテーブルも設置しています。玄関はプランターで花を飾っています。今は畳で休むところがあり、冬季はやぐらコタツを設置いたします。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有場所にはソファや椅子が点在してあります。食卓テーブルの掛けられる位置には気を配っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく好きなものや馴染みのものをお持ちくださるようにしています。	○	すべての方の部屋がその人らしく設え出来るようにしたいと思います。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	排泄の後はスプレーを使用します。冬季換気は昼食時に行います。加湿器は数箇所配置。脱着室歯入浴前に暖めます。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、お風呂、脱着室、ローカは手摺りを配備しています。入浴も自分で洗しやすい高さの椅子を使用し、残存能力を生かすように支援しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	言葉がけを否定的にならないように努めると同時にボディタッチや非言語的コミュニケーションを重視しています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭は芝生を敷き詰め寝転んでも良くしてあります。また、ガーデニング椅子やテーブルをたくさん配置して外気欲を促がしています。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームハートフルとして特にアピールしたい点、グループホームハートフルは社会福祉法人平成会に属し、特別養護老人ホーム（入所70名・短期利用者20名）デイサービスセンター（40名）居宅介護支援事業所（ケアマネージャー4名）というように様々なサービス提供の場と併設しています。高齢者といえば、突然、様態が急変したり、お一人が多くての疾病を持っておられたりという、医療とは切っても切れない状況にあります。そんな時、併設施設の看護師がすぐに駆けつけられるということは利用者・ご家族の方にとっても大変メリットが大きいと思われれます。また、認知症特有な症状で処遇困難な方が居られても、併設施設精神科嘱託医や相談員、ケアマネージャー等のネットワークがその場で受けられることが、ホーム職員の臨機応変な判断をいつも強いられる事はなく、精神的にも負担軽減ができ、すなわち介護者の安心が得られることはそこに生活される利用者の安心が得られ、質の高いケアが提供できるのではないのでしょうか。また、法人内でISO9001、2000版を平成15年に取得していますので、法人目標、職員教育、苦情解決等、様々な決め事を通じ改善を重ねていくシステムが構築されています。